

## 中国での品質管理 15年 その後

岩名正文（昭和43年卒）

### 2) 顧客要求レベルの変化あるいは顧客監査レベルの変化

"顧客固有の要求事項"

品質レベルの妥協

日系は、品質にこだわるが、反面そのSQE（日本人）の監査レベルは、下がる一方。GM, Delphiの中国サプライヤーへの期待は高いレベルにあるが、これも現在、第一世代が去り、ローカル化も進み、中国人監査員による工程監査となり、同胞擁護の中国式監査に変化しつつある。中国人SQEの実力となあなあ対応、なんでもあり。厳しい監査をやってうらまれれば、転職先候補がひとつ減るのだ。そういう優秀なSQEを選んで採用するメーカーもある。

認定機関による第三者監査でも、接待次第の業者も少なからず。また現場で指摘しても、公式記録に残さない、従って是正処置をフォローする必要がない。

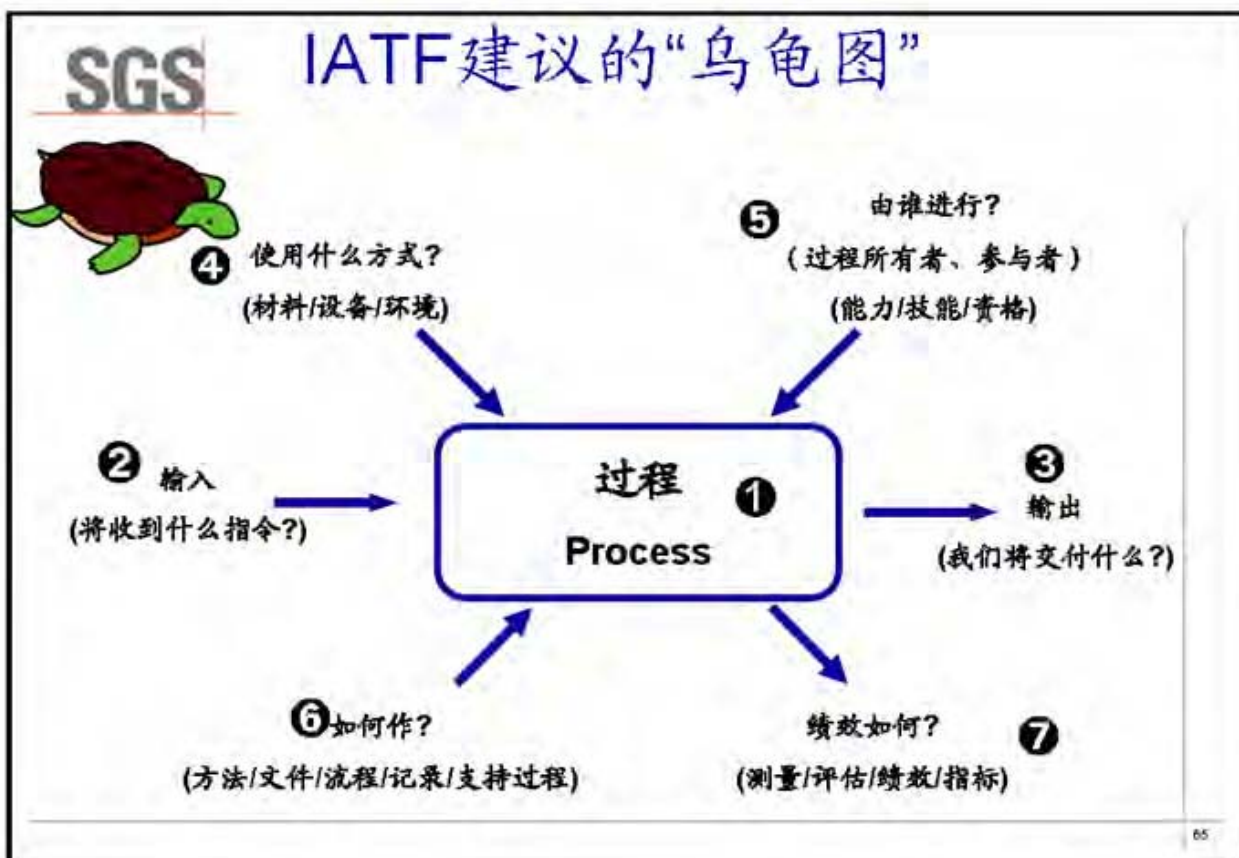


Fig.1  
SGS 中国  
シンセン  
テキスト

これは、第三者監査でも同様である。日本では、監査途中で、これ以上は、無駄だから中断する、後日準備が整ったら、連絡してくれ。中国ならこちらは、顧客なのだから、そんなことはありえない。

TS16949 と各社顧客固有の要求事項についてさてTS16949 の到達目標は、<サプライチェーンにおける不具合予防、並びにばらつきおよびムダの低減に重点を置いた継続的改善をもたらす品質マネジメントシステムをつくりあげること>とされており、不具合の予防が強調されているが、この点が、もっとも弱い面である。保全における予防保全PMも中国では、非常に弱い。TS16949 規格の中国語版では、継続的改善も並列におかれているので継続的改善を不具合是正処置と置き換えたりする理解不足を招いている。



Fig.2 QMS 導入参考書

自動車業界の Process Approach Auditであるが、中国でも規格の要求事項の遵守（適合性監査）から、それぞれのプロセスの有効性と効率を問うプロセス

Q-VDA6.3 (2010版)

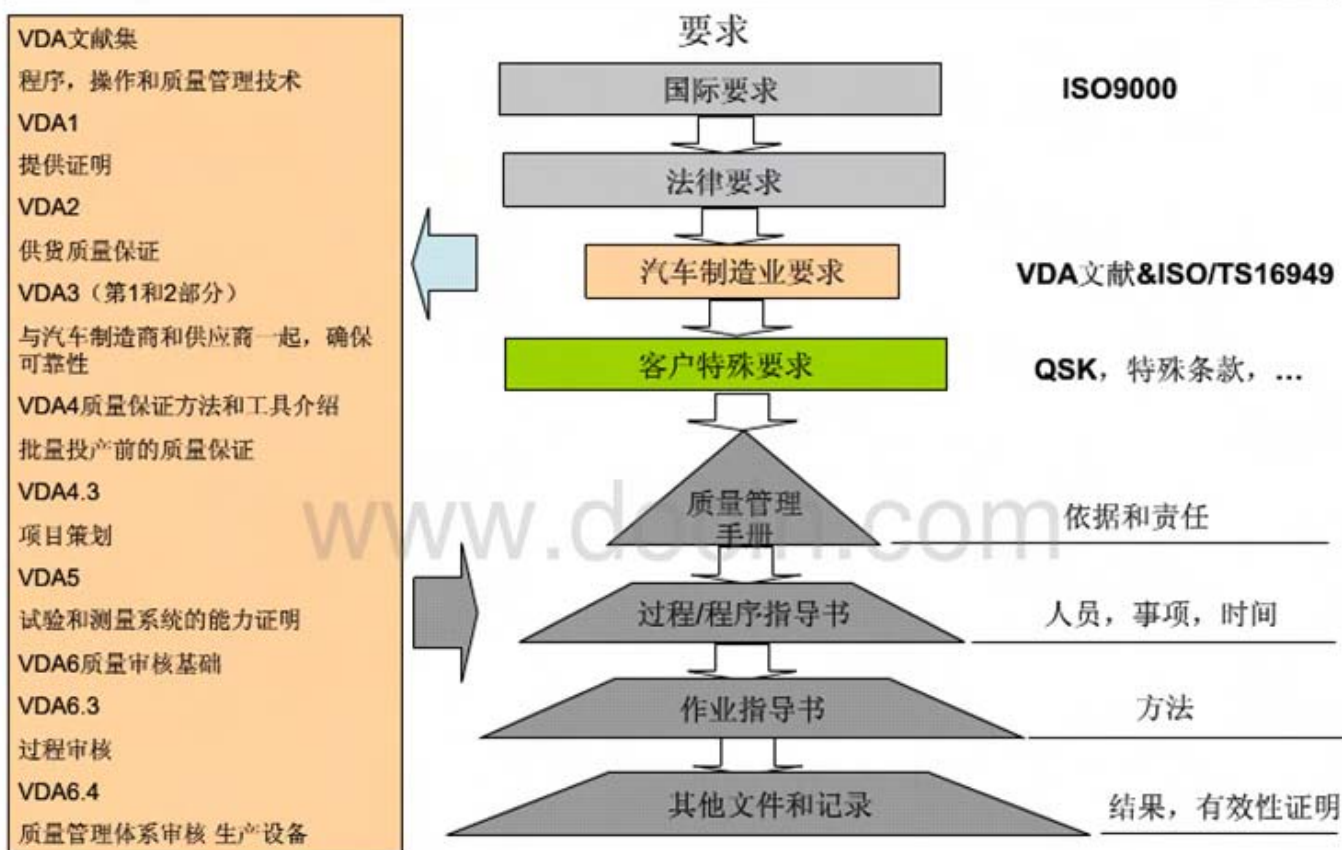


Fig.3 上海フォルクスワーゲン テキスト

アプローチ監査への移行が進んでいる。不良が現実には減っているのか？ 顧客クレーム件数が減少しているのか？ これらは、プロセスの監視指標（Key Process Index）といわれる。プロセスアプローチのキーとなるTurtle ChartをSGSシンセンのテキストから示す。新しい（2013-1発行）品質管理システムのテキストでは、全面的に、自動車産業における顧客志向型プロセスアプローチを採用して解説している。A4版656ページのこれが、1600円で購入できるのも中国ならではの。

なおTS16949では、ISO9001と異なり、顧客固有の要求事項 = CSRが追加要求事項。認定機関監査でも、CSRの提示が求められる。第三者監査に近い監査になる。

）上海大衆（フォルクスワーゲン）

ここは、上海大衆供?商?量能力という特殊要求をパワーポイント34ページ 公開している。

その教育資料は、200ページ近い。VDA6.3をベースにTS16949で補充している、そのなかから、要求事項のハイラーキーを引用して示す（前ページ）。

）上海GM

顧客固有の要求事項の実例を上海GM教育資料 SGM QSB Overview SGM 質量系統基（石編に出）概述 パワーポイント全119ページから、抜き出して以下に示す。

**Quality Systems Basics**  
质量系统基础

SHANGHAI GM QSB

**Lead to world class quality**  
引领至世界级质量

- 快速响应 Fast Response
- 不合格产品的控制 Control of Non-Conforming Product
- 验证岗位 Verification Station
- 标准化操作 Standardized Operations
- 标准化的操作工培训 Standardized Operator Training
- 防错验证 Error Proofing Verification
- 分层审核 Layered Process Audits
- 风险降低 RPN Risk Reduction
- 异物控制 Contamination Control
- 供应链管理 Supply Chain Management

无重大质量问题  
No Major Disruptions  
无PR/Rs  
No PR/Rs  
0 PPM  
+ 0 PPM

**World Class Quality**  
= 世界级质量

Fig.4 上海GMテキスト

**Frequency 频次**

Fig.5 上海GMテキスト

確かにこれらがきっちり出来ていれば、ゼロディフェクトも見えてくる。  
そして自動車業界の統一要求事項である階層別工程監査を下図のように要求している。毎月トップマネジメントも監査をせよということ。結局 監査、監査である。トップのインヴォルヴとは、そうじゃないと考えるけど、性悪説。

(つづく)

# 韓国社会の理解と大韓民国の使命

(その2)

パク チョン キュウ ( 2002 博卒 )

## ( 2 ) 李承晩の独立運動

今回は韓国が自由民主主義の国になったことは奇跡であり、それは初代大統領である李承晩(イ・スンマン)のおかげだという話をした。そこで、今回は李承晩について話を続けたい。

彼は1875年生まれで、子供のときから漢学を学び、六歳で千字文を全部憶えるくらい頭がよかったという。つまり彼はあくまでも朝鮮時代の人であった。だが、1895年、李承晩が20歳のとき、朝鮮初めての近代教育機関である培材(ペヂェ)学堂へ入り生まれ変わる。

培材(ペヂェ)学堂は アメリカの宣教師、アペンゼラー (Appenzeller) が「自由教育を受けた人を社会へ輩出する」という目標で設立された学校である。李承晩は最初、英語を学ぶため入ったが、近代的民主主義を学んで卒業した。特に李が入学した1895年は朝鮮国王である高宗の妃が日本の刺客に殺された年である。学生の李承晩は次第に革命家になっていた。

培材学堂を卒業した 李承晩は1899年、高宗の退位を要求する事件に関わり死刑判決を受けて投獄された。投獄中、『万国公法』を翻訳し、英語で聖書を読み



図1 . 李承晩と同じ刑務所に投獄されている人々

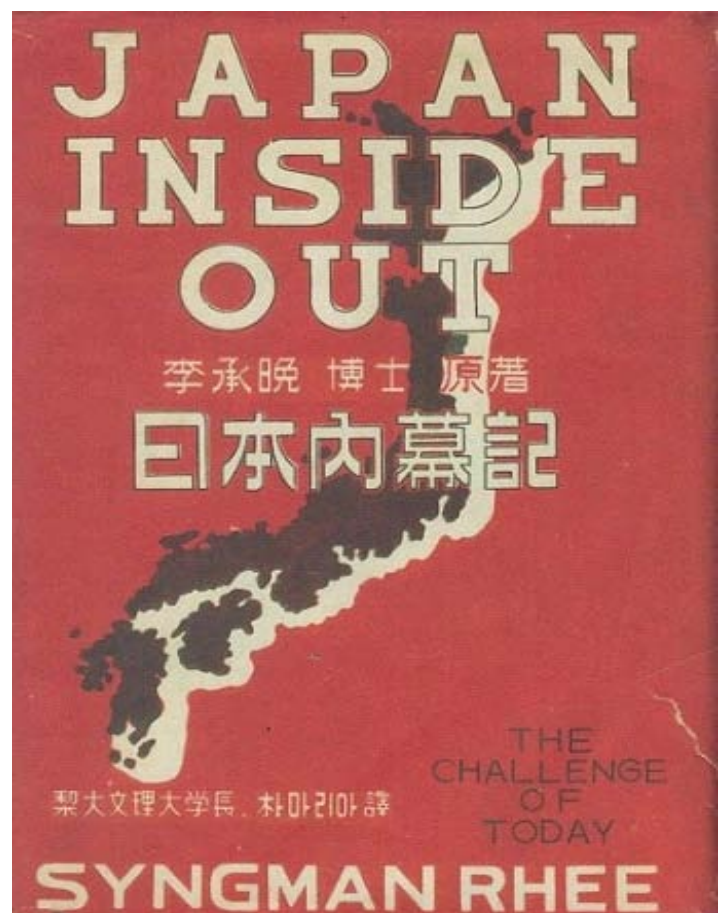
ながら『英語辞典』を書いた。また、1904年2月に起った日露戦争をきっかけに『独立精神』という本を書き、王政の問題点と民主主義の長点を紹介した。面白いのは、投獄されている他の人にハングル、漢字、英語、数学、歴史、聖書を教える先生の役割もした。1904年8月、一時的に革新派が朝鮮の政権を握った時、李承晩は釈放された。

その後、李承晩は1905年、30歳の時アメリカへ行き、ジョージ・ワシントン大学に入学して1907年6月卒業する。そして、1908年にハーバード大学修士を、1910年プリンストン大学で政治学博士号を取って、韓国人初めての博士になる。そのときの指導教官は後にアメリカの28代大統領になるウッドロウ・ウィルソン (Woodrow Wilson) である。また、連合軍の最高司令官になるマッカーサーともその時期に知り合いになる。彼は朝鮮から一人で世界へ飛びたち、世界最高の教育を受け、政治と世界情勢についてトップレベルになった。

李承晩は1910年2月、朝鮮へ帰ってYMCAなどで英語、世界史、聖書を教えるが、同じ年の8月に朝鮮という国が無くなった。12月には朝鮮総督府寺内正毅がキリスト教指導者700人を捕まえる事件が起こった。そのうち105人が有罪判決を受けてた「105人事件」が起こった、それで、李承晩は脅威を感じ1912年にアメリカへ亡命した。そして、李承晩は韓国が独立するまで、ずっと海外で独立運動をした。国籍もないままで！

その他、いろいろあるが、李承晩が書いた本について話をしたい。1931年に満州事変、1937年に日中戦争が次々と起こった後の1939年、李承晩は一冊の本を書き始めた。それが『JAPAN INSIDE OUT』という本である。日本の本音 (INSIDE) を明らかにする (OUT) と意味で韓国語では『日本内幕記』というタイトルで翻訳される。

本の内容は、「日本の軍国主義の侵略は、朝鮮、満洲、中国にとどまらず、アメリカにも侵略を始める。だから、アメリカと日本の衝突は不可避である」。その本が1941年8月1日、出版された時にはあまり目立たなかったが、出版4ヶ月後の12月、日本の真珠



湾攻撃でアメリカ人は皆驚いた。李承晩はアメリカの政治家に聖書の 先知者のような存在と認められた。そのとき 李承晩はすでに 66 歳。それで、韓国が独立する 1945 年すでに年は 70 歳であった。でも、 李承晩の精神は若者と同じく熱くて、新しい国の建設のため韓国に戻った。 李承晩の独立活動と独立以降の役割については次回話す。

### < 参考：縁の繋がり >

1895 年閔妃が日本の刺客に殺される時、宮殿の道を案内した人が禹範善（ウ・ボムソン）という人で、のちに日本に亡命して日本人と結婚する。その長男が世界的な育種学者である禹長春博士（ウ・ジャンチュン）だ。禹長春は東京大学、農科大学を卒業をし、京都のある研究農場で働いた。1950 年、妻と子供を日本に残して韓国へ入り 61 歳で死ぬまでの 9 年間、韓国の種子改良に貢献した。その記念で釜山に禹長春記念館があり、近所の道路が「禹長春路」に命名された。禹長春の娘の一人が鹿児島大学を卒業して、京都で仕事をしている人と結婚する。その男の名前が稲盛和夫であり、のちに京セラを創立する。また、禹長春についての話は『わが祖国』という本でよく知られている。



(つづく)

## —— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail : [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MS ワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

# ユニークな塾

昭和55年卒 奥田 寛

先日テレビで3つのユニークな塾が紹介されていました。いずれの塾もすごい人気で、入塾待ちの状態だそうです。

## 1. 授業をしない塾

先生は生徒に課題を与えて、生徒はその課題に対して自分で勉強するというやり方です。これは、自主的に勉強をするという習慣を身につけさせるための方法で、従来の授業を聞くという受身の勉強から、自ら考えて勉強するという能動的な姿勢を身に着けるための訓練です。では、何もしない生徒はどうするのでしょうか。「授業をしない=ほったらかし」ではなく、自ら勉強をしない生徒には先生ができるまで指導するそうです。回りの生徒が自主的に勉強する姿に刺激されて、できなかった生徒もできるようになるそうです。

ずいぶん昔の話になりますが、私が中学生のころ変わった数学の先生がいて、この先生はまったく授業をしない主義でした。1年間自習状態で、「分からないことがあれば教えてやる」というやり方でした。でも、この先生の問題点は、皆が遊んで勉強しなくてもほったらかしで、一緒に生徒とおしゃべりをしていたということでした。さすがにこのやりかたでは、授業中ほとんど勉強できずに、結局家で自習したのを思い出しました。指導方法が重要ですね。

これも古い話で恐縮ですが、高校時代や大学時代に多くの授業で睡魔に襲われた記憶があります。社会人になっても、いわゆる「研修」と称する講義をたくさん受けましたが、ほとんど身に付いたものは無いように思います。結局受身ではなかなか成果を挙げるのは難しいということでしょう。基本的にはこの塾の指導方針は正しいのではないのでしょうか。

仕事も上司の言うことをやればよいという受身の姿勢より、自ら考えて遂行するという能動的な姿勢のほうが成果は上がるのと同じだと思います。

## 2. ほめまくる塾

この塾は生徒に対し、ことあるごとに「ほめる」そうです。生徒はほめられることにより「やる気」が出てきて、自ら進んで勉強をするそうです。この塾も、やり方こそ違えども「授業をしない塾」と同じく「自主性を引き出す」というやり方です。この方法も非常に効果的だと思いますが、自分が子供に対してできるかということ、かなり難しそうですね。塾ならではの方法かと思います。



仕事においてもほめることは効果があると思いますが、あまりほめられると「ほめごろし」をしていると思われそうです・・・

### 3.15分毎に教科を変える塾

この塾は生徒の集中力持続時間を引き延ばすために1教科15分授業を実施しているそうです。たとえば15分算数の授業をした後すぐ国語の授業を15分するといったやり方で、トータル90分間ぶっ続けの授業をするそうです。通常小学生の集中力はせいぜい50～60分だといわれていますが、この方法だと90分持続できるそうです。というのも、算数、理科、国語、社会では脳の使う部分が異なり、いわゆる「気分転換」になるようです。そういえば遠い昔受験勉強をしているときに、同じ教科を連続で勉強していると頭がボーっとしてくるので、気分転換に科目を変えて勉強した記憶があります。

このやり方も仕事に応用できそうです。一人がひとつの仕事を担当するのではなく、複数の仕事を担当することにより効率が上がりそうです。

さて、皆さんいかがでしたか。ユニークな塾のやり方を仕事に応用してみませんか。

(おわり)

# 超音速機の思い出

羽田 幹夫 (1953 学部卒 1954 修士修了)

1975年6月、私は偶々英国の学会に出席した後、次の日に米国西海岸での別の会議に出席するという難題を抱えていた。何か良い方法が無いかと考えた結果、当時就航していた超音速機コンコードを利用すれば可能であることを発見した。

会社の役員に相談したところ以外にも即座に許可されて出張出来ることとなった。日本人としては12人しか利用者がいなかったが、幸い進歩的な会社幹部の計らいで超音速機の旅行が実現したのである。

ロンドンのヒースロー空港を午前9時に離陸し、ニューヨークのケネディ空港まで3時間59分掛って到着した。巡航速度はマッハ2.02(時速2,156km)、現在のジェット戦闘機と変わらない高速であった。離陸するときは細長い機首のため視界が得られないことから、操縦席の、前の、部分を油圧で折り曲げて前方視界を得られるように工夫されていた。この時代にこれ程の技術を開発したことは、並々ならぬ資金、技術ならびに努力を投入されたものとして感服に耐えない。

当時の技術でこれ程の高性能を出すことが出来たかを検証すると、当時の金額で約1兆円の資金をフランスと英国の政府が共同出資し、機体、主翼および尾翼、エンジンおよび補機、電気計装、操縦装置、空調設備、油圧機器、無線機器、レーダーおよび航法設備、燃料系統、氷結防止、酸素系統、防火系統等、全ての系統を折半して製作したものであった。

これらの部品は、両国を中心とするヨーロッパ各国の工場で作られた後、最終組み立ての行われる、フランスのアエロ・スパシアル社ツールズ工場と英国のブリテッシュ・エアクラフト社フォルトン工場に運ばれ、並行して最終組立が行われた。

6月25日の搭乗当日、ロンドンヒースロー空港の特別搭乗受付に出頭した。コンコードは大型のジェット機よりも遥かに華奢な機体で、座席はサービスカートがやっと通れる通路を挟んで片側2列の合計4席と狭く、機体の抵抗を減らすための苦勞が伺えた。客室の前方隔壁にマッハ計(音速計)が取り付けられ、乗客の興味を集める趣向と思われた。

陸上での亜音速飛行の巡航速度はM0.8程度でこれ以上速くすると衝撃波が発生して地上にトラブルを起こすことがあるとのことである。約1.5時間後に陸地か

ら離れた海上に出た。これから超音速飛行入るとの機長のアナウンスがあり、"Let's go!" の掛け声と共に身体が座席に押し付けられ、15分程度でマッハ計の指示はM2.02(コンコードの巡航速度2,156km/h)まで急上昇した。コンコードはそのまま18,000mまで上昇し、空は薄暗くなり、星が見えてきた。遙か下には青い地球が丸く見え、白い北極圏の上を白い雲が流れて行くのがハッキリと見えた。まるでSF映画を見ているようで、茫然として時間を忘れるような感覚を味わったことは忘れられない思い出であった。ロンドン ニューヨーク間の飛行時間は3時間59分であるが、飛行速度が地球の自転速度より速いためロンドンを9時に出発してニューヨークに8時に到着するという現象が起こるのである。

誤算だったのはニューヨークからの国内線の始発は10時前なので、2時間も無人のターミナルで待たなければならなかったことであった。将来もし超音速機が実用化したならば、全ての飛行スケジュールを作り直すのにどの程度の費用が必要となるか、聊か困惑したが、幸か不幸かジャンボの登場と共にコンコードの採算割れが明らかになり、コンコードは僅か4年余りで撤退の止む無き状態に追い込まれたのである。

(おわり)

## H26 晦日会（河本教授研究室同窓会）開催報告

河本研OB有志の同窓会である晦日会が平成26年8月30日（土）17時よりホテルグランビア大阪19階アブで開催されました。14名が集まり、自由に飲食・歓談をしました。3時間があっという間に過ぎ、最後に並木氏から最近の京機会の活動状況の報告がありましたが、これに対して京機会活動の進め方に対する意見が出、議論が盛り上がりましたが、閉会の時刻を過ぎたため、議論を中断しました。そして次回も議論をしようということになりました。

来年も同時期に同場所で開催いたします。次回は平成27年8月29日（土）に開催します。本会は前回の案内に返信をいただいた方に案内することで進めています。関心を持たれた方は幹事 [hts\\_kawai@yahoo.co.jp](mailto:hts_kawai@yahoo.co.jp) 川合等（S42卒）まで連絡ください。



## 第12話 市民生活

会議の後、モスクワでいくつかの機械工場を見ようかと計画していたのですが、70歳を超えた小生がハードな旅程を極寒の時に立てるのもだんだん心配になってきて、そのまま週末をイシェフスクに居座りました。どこの見物に連れて行ってあげようかと世話をしてくれていた大学の先生に問われました。

車で数時間言ったところにチャイコフスキーの生まれた家があるのですが、其処は今は休館中らしいです。この寒い中、あまり動くのも嫌なので、ロシア人の本当の生活が見てみたいと注文を出しました。「そんなら、私の家に招待するよ。今までこんなことはあまりしたことがないが、いい機会かもしれないので。」と好意の提案がありました。「しかし、明日、日曜日の朝は私が所属している大学の職員バレーボールチームが学生のチャンピオンチームと対戦するので、その試合が終わってから案内します」とのこと。翌朝、この教授の女秘書が迎えに来てくれました。「トルバチェフ教授、あんたが試合に出るのですか?」、「そうです、休日にスポーツをやる、これがロシア人の生活の一つのパターンです。うーん、日本と大分違うなー。

だけど1972年ごろ、私がT.U. Muenchenでゴロついていたところに、研究室にロシアの大学から客員の先生が来ました。ビスカスカップリングの研究と情報収集のためにミュンヘンにひと月ほどいることになったそうでしたが、彼と話していて、彼がオリンピックの三段跳びのメダリストだということを知りました。オリンピックのメダリストが大学の機械系の先生。ロシアと言うのは日本とは全く違うすごい国だなーと感じた昔を思い出しました。



赤シャツがトルバチェフ教授

試合のある体育館は古い建物で、一寸うらぶれた廊下を通って行くと、体育館の入り口におばあちゃんの門衛があり、連れてくれているナタリーがごちゃご

ちやと言ったら、にっこり笑って、どうぞどうぞと歓迎の感じで通してくれました。体育館の床は木張りのものですが、日本や欧米の床のように平滑ではなく、一寸古い木で張った廊下のイメージです。だけどペイントが塗ってあり、ごみひとつ落ちてなく、つるつるに磨かれています。一生懸命に手入れをしているのだなー、と一寸ロシア人を見直しました。バレーボールの試合は学生チームが勝ちました。教授曰く「あいつらは、この州のチャンピオンチームなのでプロなんだよ」。

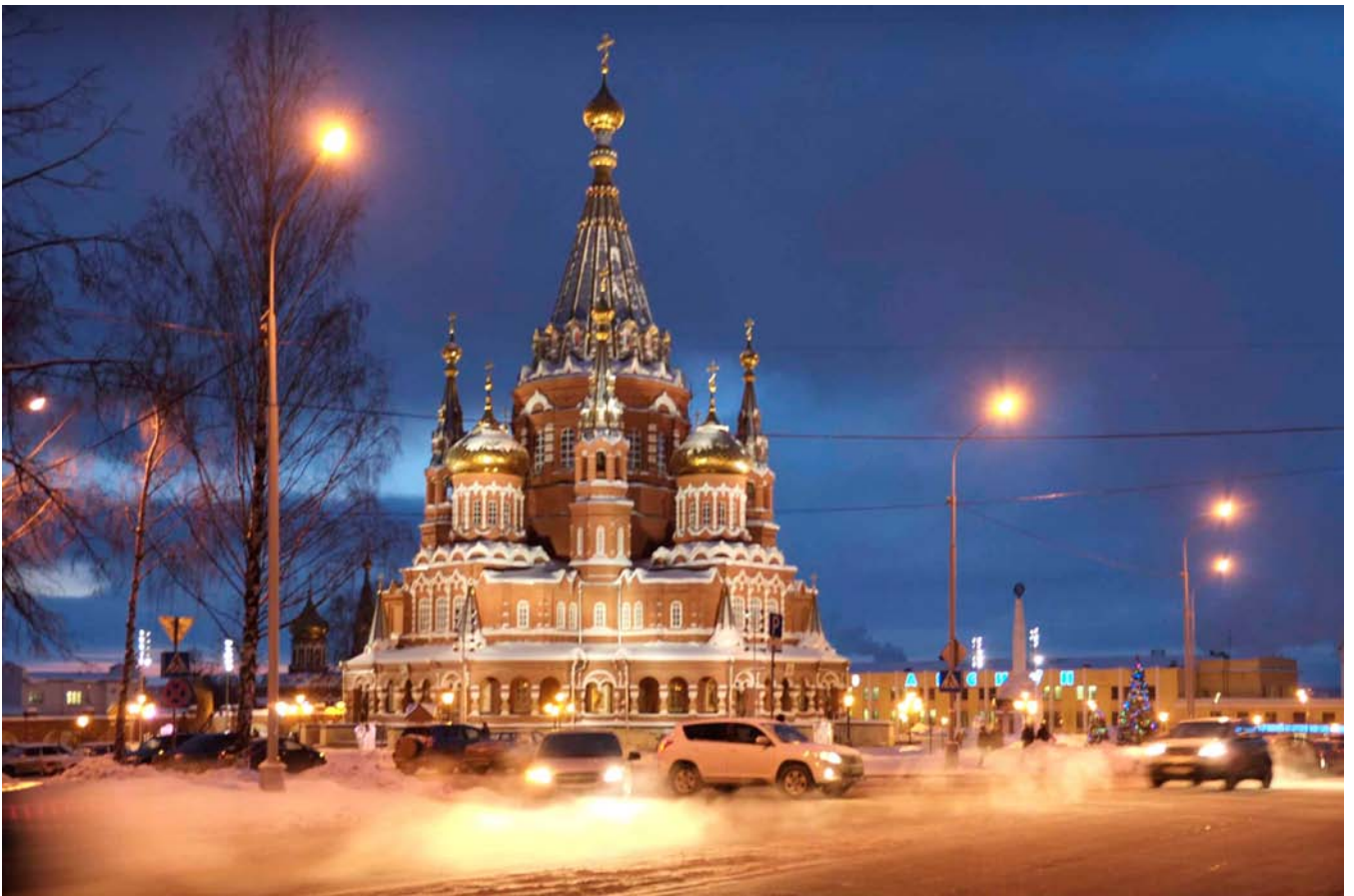
試合が終わってから、彼のアパートに案内してくれました。日本の公団住宅的アパートです。建物の中は少し薄暗く、階段のコンクリートはエッジが割れて欠けていて、日本の文化住宅の高層集合的イメージで、以前に何度か訪れたことのある東側の国々の庶民住宅状況がまだそのままの残っています。しかし家の居間には韓国製の大きな薄型テレビがあり、普通の風呂の他に小さいですが個人用のバーニャ（蒸し風呂）もあります。奥さんはおとなしい人で、息子と娘がいます。この女の子はめちゃくちゃに活発で人懐っこく、お客が来たとなると大騒ぎです。

奥さんが郷土料理を作ってくれました。いわゆる水餃子です。この地方ではこの餃子が上等な部類の主たるメニューとのこと。女の子はこれが大好物らしく、みんなで「戴きますー」と言ったとたんにかぶりついていました。かわいい子です。餃子自体は中国のものに似たもので、どこが違うかを言うのは難しいのですが、食べ方が違います。これに恐らくヨーグルトの混じったサワークリームをかけて食べるのです。若干の違和感が最初はあったのですが、それはそれで結構おいしいです。それから近くの森で集めてきたキノコを炒めたもの。ロシア（ウドムルト）では、キノコなんてものは買うものではなくて、森に行って集めてくるものだそうです。ビート（赤大根のようなもの）のサラダも、さっぱりしていてなかなかのもの。こんな料理に舌鼓を打ちながら、ウオッカをキューッと、と言うのがロシア式とか。楽しい食事でした。このような



ロシアの大学の先生の小さなアパートでの生活、貧しかったが幸せ、という私が子供のころ、戦後に味わっていた生活を思い出させてくれました。彼の先生の先生でもあった前掲のリトビン教授の生活も、彼が超一流の学者と認められてからも、個人の生活は貧しいアパート住まいであり、それが彼のアメリカ逃避行の一つの原因にもなったとの話を昔聞いたことがありました。「貧しいが幸せ」と感じられるのと、それを idyllisch (昔懐かしく夢を見ているよう) な思い出として感じられるのには、年齢の時期があるのかもしれませんが。

町には車があふれています。車は30%が日本製、30%がドイツ製、20%が韓国製、5%がロシア製程度ようです。この先生はスズキ・スイフトの中古に乗っていました。気に入っていると書いてました。日本製の中古とロシア製の新品がほぼ同じ値段で売られているそうで、日本の中古の方に故障の少なさから人気があるそうです。



気温がマイナス15度から28度のここイシエフスクでは、スパイクタイヤが許されています。スパイクが氷を打ち砕くせいか、このような温度にも拘らず、(乾いた)ザラメ状の氷が道路上にかなりあります。このような状態の氷は恐らく摩擦特性が安定しているものらしく、かなりの高速で車を走らせます。カーブでは舵を入れてリアを若干滑り気味にして、アクセルで車の進路を調節して運転しているようです。運転技術的には北海道を除く日本のドライバーよりはるかにうまいですね。

(つづく)

## 1. 円レートについて考える

2014.8.5 伊藤元重 Nikkei BPnet

### 1-1 今後の円レートはどちらに向かうのか

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140804/410312/>

### 1-2 気になる米国金融政策の動向

2014.8.21

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140818/411704/>

金利の動向が為替レートを動かす重要な要因であるのは、多くの人には自明のことだろう。日本の金利が下がれば、日本から海外に資金が出る力が強くなり、結果的に円安方向に為替レートが動く。米国の金利が上昇しても、同じようなことが起こる。この場合にも円からドルの方向により高い金利を求めて資金が動く力が強くなって、為替レートは円安（ドル高）の方向に動くのだ。

### 1-3 物価と円レート

2014.9.1

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140818/411709/?ST=business&P=1>

リーマンショックをきっかけにして、円レートは急速に円高に動いた。これが日本の輸出産業を直撃し、リーマンショック後の日本の成長率の落ち込みは、先進国の中で最悪のものとなった。

## 2. アベノミクスに4つの誤算、円安のデメリットが顕在化

2014.8.25

BNPパリバ証券の河野龍太郎チーフエコノミストに聞く 日経ビジネスOnline

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20140822/270195/?P=1>

4～6月期の実質GDP（国内総生産）の成長率は年率でマイナス6.8%と大きく落ち込みました。消費の回復も遅れています。これまで消費増税の影響は「想定内」との見方が多かったですが、実は「想定外」のことが起きているのではないのでしょうか。

## 3. なぜ、日本の輸出に対するネットワーク効果は小さいのか？

経産研

[http://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01\\_0404.html](http://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01_0404.html)

経済的・社会的ネットワークが、国際貿易の重要なドライバーであることは、良く知られている。これまで国内で構築されてきたネットワークは、海外直接投資や労働の越境移動を通して、国際的に拡大している。こうした国境を越えたネットワークは、インフォーマルな貿易障壁（契約の不履行や国際商取引に関する情報不足など）を取り除き、国際貿易を促進する上で重要な役割を果たしている。



#### 4 . 国際分業下における日本の企業行動と産業構造に関する調査研究

平成 25 年度総合調査研究

2014.2.14 帝国データバンク

[http://www.meti.go.jp/meti\\_lib/report/2014fy/E004422.pdf](http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E004422.pdf)

本調査では、既存の調査・研究の成果を踏まえつつ、以下の点を明らかにする： 日本企業のグローバル化の実態、 日本企業のグローバル化が国内企業の生産性へ与える効果、 分析結果を踏まえて、成長戦略で掲げられている「実質経済成長率 2%（平均年率）」に国際展開戦略が生産性効果を通じてどれだけ貢献しうるか。

#### 5 . 震災以来のマイナス成長で顕在化した消費と輸出の弱さ

2014.8.20

<http://diamond.jp/articles/-/57892>

DIAMOND Online

4 月の消費税率引き上げ後、財布の中のお金の減りが早くなったと実感している人は少なくないはずだ。8 月 13 日に発表された 2014 年 4 ~ 6 月期の実質国内総生産（GDP）速報値は、6.8%の大幅なマイナス（前期比年率、以下同）となった。

#### 6 . 新興国・途上国の輸入市場における日本のプレゼンス変化

日中韓のシェアの比較から

日本総合研

<http://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/rim/pdf/7560.pdf>

本稿は、新興国・途上国の輸入市場の現状を踏まえ、わが国のプレゼンスの変化、その特徴と課題を整理するものである。わが国の新興国・途上国向け輸出は金額では増加しているものの、その輸入市場拡大の効果を十分に吸収しているとはいえない。とくに価格競争力の高い中国製品と厳しい競合関係にある製品については、ASEANなどで生産・輸出する体制をより強化する必要がある。また、日本の競争力があるといわれる資本財や中間財・部品でも優位性を失いつつある点は軽視してはならない。品質の向上に加えて、市場開拓と確保に向けてマーケティングを強化する必要がある。

#### 7 . 着実に拡大するアジアからの対日直接投資

日本総合研

<http://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/rim/pdf/7561.pdf>

日本では、これまで対内直接投資はアメリカおよび欧州からが中心であり、現在も投資残高の 8 割弱を欧米が占めている。しかし、2010 年以降、欧米からの投資が低調ななかで、アジアからの投資が堅調を維持している。中長期的にみた理想的な姿として、日本でアジア系企業の集積が進むと、日本がアジアへのゲートウェイとしての地位を確立し、結果として欧米からの投資も惹きつけることが展望出来る。もっとも、アジアからの直接投資の拡大がこうした効果をもたらすに至るまでには極めて険しい道のりとなることを覚悟しなければならない。日本

の事業環境を大胆に改善したうえで、アジア系企業の誘致に向けたきめ細かな取り組みが必要となろう。

## 8 . 米国：試練に直面するオバマ政権

2014.08.12 三井物産戦略研

[http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d\\_r1408k\\_katanowada.html](http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d_r1408k_katanowada.html)

## 9 . ジェトロ世界貿易投資報告 2014 年版

JETRO 日本貿易振興機構

日本を国際ビジネス循環の基点に

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/>

ポイント・解説資料を読む（記者発表）

<http://www.jetro.go.jp/news/releases/20140807062-news>

### 第1部 総論編

#### I. 世界経済・貿易・直接投資の現状（3MB）

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-1.pdf>

1. 世界経済の現状と課題
2. 世界と日本の貿易
3. 世界と日本の直接投資

#### II. 世界の貿易ルール形成の動向（2.5MB）

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-2.pdf>

1. 世界と日本の FTA の現状と展望
2. 多国間貿易ルールの必要性と課題

#### III. 日本を国際ビジネス循環の基点に（3.7MB）

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-3.pdf>

1. 日本企業の海外市場開拓
2. 新興国のビジネス環境
3. 対日投資などインバウンド拡大に向けて
4. 日本と日本企業のさらなるグローバル化に向けた課題

#### IV. 日本を国際ビジネス循環の基点に（結語）（836KB）

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-4.pdf>

資料 世界と日本の貿易投資統計（909KB）

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-5.pdf>

表1 国・地域別 GDP 伸び率の推移

表2 世界貿易マトリクス・輸出額（2013年）

表3 世界の国・地域別輸出入（2013年）

表4 世界の商品別輸出入（2013年）

表5 2013年の主要国・地域の直接投資

< 国際収支ベース、ネット、フロー >

- 表 6 世界のクロスボーダー M&A (被買収国・地域別、買収国・地域別)
- 表 7 世界のクロスボーダー M&A (業種別)
- 表 8 世界のクロスボーダー M&A 上位 10 件 (2009 年～2014 年 6 月)
- 表 9 日本の国・地域別輸出入
- 表 10 日本の商品別輸出 (2013 年)
- 表 11 日本の商品別輸入 (2013 年)
- 表 12 日本の国・地域別対外・対内直接投資 <国際収支ベース、ネット、フロー>
- 表 13 日本の業種別対外・対内直接投資 <国際収支ベース、ネット、フロー>
- 表 14 日本のクロスボーダー M&A 上位 5 件 (2009 年～2014 年 6 月)
- 表 15 日本の国・地域別対外・対内直接投資残高
- 表 16 世界の FTA 一覧 (264 件)

57 力国・地域の経済、貿易、投資動向の詳細な分析を行う

「第 2 部 国・地域編」は後日掲載予定

## 10 . 欧州企業のアジアビジネス戦略 (2014 年 1 月～6 月報告)(2014 年 8 月)

2014.08.06 JETRO 日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001800>

アジア市場では、各産業分野において欧州企業が日本企業の競合相手になる場合がある。農林水産・食品・飲料、化学・医薬品、医療機器、自動車、産業機械・エンジニアリング、環境・エネルギー、家庭用品・生活雑貨など多岐にわたる欧州企業のアジア市場での主な動きをまとめた。様々な分野において、研究開発拠点の設置・強化などアジア市場開拓への取り組みを強化する動きがみられた。

欧州企業のアジアビジネス戦略 (2014 年 1 月～6 月報告)(1.4MB)PDF

<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001800/07001800.pdf>

## 11 . アジア企業の欧州ビジネス戦略 (2014 年 1 月～6 月報告)(2014 年 8 月)

2014.08.06 JETRO 日本貿易振興機構

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001806>

欧州市場では、昨今、中国や韓国を中心とするアジア企業の活動が活発化しており、一部では日本企業との競合関係もある。電気・電子・精密、自動車、建設・サービスなどの分野で活発な中・韓・インドなどアジア企業の設備増強、欧州企業との連携、販売強化などの動きがみられる。主な事例をまとめた。

アジア企業の欧州ビジネス戦略 (2014 年 1 月～6 月報告)(1.3MB)

<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001806/07001806.pdf>

## 12 . 珠江デルタ進出日系企業の対 ASEAN 事業戦略 (2014 年 7 月)

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/reports/07001796>

日本企業による中国からASEANへの投資先のシフトが顕著となっている中、ASEANに近接し、世界最大の部品産業の集積地である広東省・珠江デルタは、その国境を越えた産業立地再編の中心に位置する。ASEAN中国自由貿易協定（ACFTA）の進展による関税削減、物流サービスの拡充や輸送インフラの整備の進展を受け、珠江デルタ地域とASEANとのビジネスコスト、距離が大幅に短縮されていることが背景にある。珠江デルタからASEANへの生産移管や両地域間での国際分業が進展する状況下、珠江デルタに拠点を有する日系企業は、市場として、もしくは生産シフト先としてのASEANをどのように評価しているのか、また相互補完的なサプライチェーンを構築する上でのメリットと課題にはどのようなものがあるのか、進出日系企業へのインタビューなどを基に報告する。

珠江デルタ進出日系企業の対ASEAN事業戦略(1.5MB)

<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001796/07001796.pdf>

### 13. 新興国経済の実情及び成長方向性にかかる調査・分析

2014.3

[http://www.meti.go.jp/meti\\_lib/report/2014fy/E004227.pdf](http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E004227.pdf)

大和総研

#### 第1章 調査対象19カ国の概要

#### 第2章 各国編

- |            |            |           |
|------------|------------|-----------|
| 1. ラオス     | 2. カンボジア   | 3. パキスタン  |
| 4. バングラデシュ | 5. スリランカ   | 6. ロシア    |
| 7. カザフスタン  | 8. ウクライナ   | 9. エジプト   |
| 10. トルコ    | 11. オマーン   | 12. イラン   |
| 13. モロッコ   | 14. ナイジェリア | 15. エチオピア |
| 16. アンゴラ   | 17. ガーナ    | 18. ジンバブエ |
| 19. モザンビーク |            |           |

#### 第3章 トピックス

1. 中国の動向
2. 周辺地域への事業展開の現状と可能性

### 14. ASEAN市場開拓のポイント

2014.07.31

- 中小企業の取り組み事例にみる - (2014年7月)

JETRO

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001814>

約6億人の人口を擁するASEAN諸国は高成長により、購買力を持った中間層・富裕層が拡大しつつある成長著しい消費市場として注目を集めている。ジェトロは、政府の推進するクール・ジャパン戦略の一環として、2012年度よりASEAN諸国におけるわが国中小企業の販路開拓を支援する「ASEAN・キャラバン事業」を実施している。2年目となる2013年度は、前回のマレーシア・クアラルンプールとタイ・バンコクに加え、シンガポールおよびインドネシア・ジャカルタの四都

市に拡大して開催。好調な経済成長に裏打ちされたマーケットの伸びに商機を見出そうと、全国25都府県から83社（前回57社）の日用品・生活雑貨やインテリア、建材メーカーが参加した。

このたびジェトロでは、2013年度のASEANキャラバン事業に参加した企業の中から20社を対象に、ASEAN市場開拓の現状、市場開拓にあたっての課題や留意点、今後の方向性などについてインタビューを実施した。本報告書は、各社へのインタビューを通じて明らかになったASEAN市場開拓における課題や留意点を分析するとともに、各社の取り組みをケーススタディーとしてまとめた。

ASEAN市場開拓のポイント - 中小企業の取り組み事例にみる - (1.5MB)

<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001814/07001814a.pdf>